

水産試験場船溜まりにおけるスジエビ蛸集状況モニタリング

大前信輔

1. 目的

例年、春から初夏にかけてスジエビの蛸集が見られる水産試験場船溜まりにおいて、簡易なトラップによる接岸状況のモニタリング調査を実施した。

今後のこれらのデータの蓄積を待ち、資源変動予測のための基礎データとする。

2. 方法

4月上旬から7月下旬にかけて、水産試験場の船溜まりに蛸集基体としてキンランを入れた箱形トラップを3基設置し、7~10日ごとに取り上げ、スジエビ個体数をモニタリングした。捕獲したスジエビは、2-プロパノール(50%)で保存し、腹節側甲の腹肢の形状から雌雄を判別、抱卵の有無を判別するとともに、デジタル画像化して、画像処理ソフト(Image-J)により画像上で頭胸甲長(CL)を測定した。

3. 結果

2020年の捕獲数の推移は二峰型であり、5月中旬に大きなピークを、6月中旬に小さなピークを示した。6月中旬にピークとなる単峰型の推移を示す過去平均とは異なった。また、捕獲数も5月中旬に893.0尾/籠/日を示すなど、5月上旬から6月下旬にかけて過去平均を上回った(図1)。

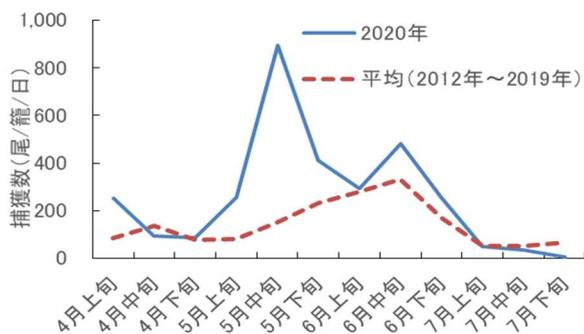


図1. スジエビ捕獲数の変動

抱卵メスは4月8日に出現し、その個体数は5月下旬から6月中旬にかけてピークとなった(図2)。

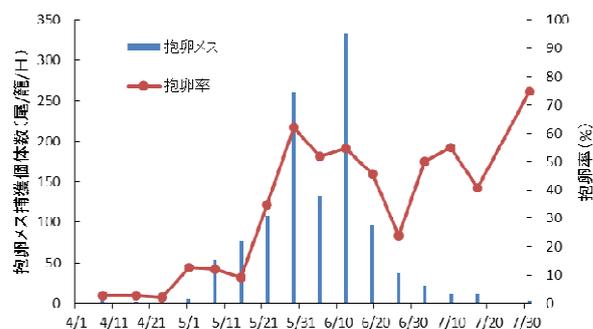


図2. メスの抱卵状況

捕獲したスジエビの雌雄別の頭胸甲長のヒストグラムを図3に示した。雌は7.25mmをモードにもつ単峰型で、雄は4.75mmをモードに持つ単峰型で、雌は雄より大型であった。

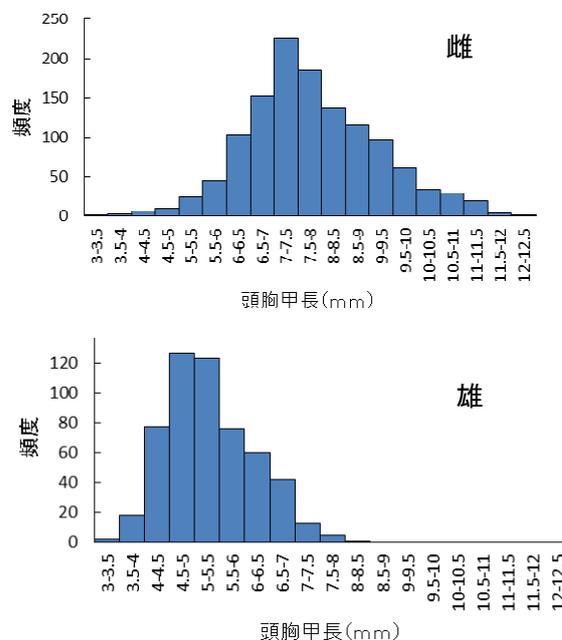


図3. 雌雄別頭胸甲長のヒストグラム